

誰もがいつまでも 住み続けたい 魅力あるまちに！

# 玉川学園・南大谷地区協議会 ニュース

## vol.17

(創刊第十七号) 2022.3

発行&発行責任者：玉川学園・南大谷地区協議会  
代表 服部 知行

2021年度は玉川学園地区社会福祉協議会主催の「街かど・なんでも相談室」、「玉ちゃんサービス」、玉川学園地区まちづくりの会主催の「空き家にしないための啓発」、「多世代居場所づくり」、OMUSUBi主催の「おむすび食堂+冒険遊び場」、玉川学園町内会+玉川学園地区社協+町田第3高齢者支援センター+玉川学園地区まちづくりの会主催の「ご近所さん会」、南大谷小学校主催の「ARを利用した防災体験」、NPO法人桜実会主催の「認知症対策」、玉川学園はなびら市実行委員会主催の「はなびら市・さくらめぐり」、「広報」の11事業が行われています。今回は、南大谷小学校の「ARを利用した防災体験」の様子と「はなびら市・さくらめぐり」のご案内をしたいと思います。

### 第十二回 はなびら市・さくらめぐり

日時：3月26日(土) 11時~15時

(雨天の場合3月27日(日)に順延)

場所：三丁目こども広場

(こころこども児童館ウラ)

主催：玉川学園はなびら市実行委員会

連絡先：篠原 TEL090-8517-0116

数多くの作家さんの作品展示と販売が行われる予定です。

お茶とエコバッグを持参のうえ、ぜひいらしてください！



### ＜南大谷小学校で行われたARを利用した防災体験に参加しました＞

2021年12月3日、南大谷小学校では3年生から5年生を対象としたAR（拡張現実：Augmented Reality）を利用した防災体験が行われました。ARアプリをインストールしたスマホとGoogleを使用すると、自分の胸元まで浸水している周りの景色や様子を見ることができます。永井校長先生の雨水の流れの仕組みや冠水した時の歩き方のレクチャー後に、ARで水害疑似体験をしました。今回は恩田川の氾濫を想定しましたが、町田市には各地に調整池があるお陰で、恩田川は氾濫しないこと、また日産スタジアムは多目的遊水池機能を持っていて、洪水から街を守っていることなど、流域や治水のお話にも触れられていました。永井校長先生は前任が木曽境川小学校だったので、境川の氾濫を何度も見てきているそうです。排水溝からは雨水が溢れ、マンホールの蓋が流されてしまったら、道路に穴が空いた危険な状態になります。また、階段など高い段差も見えないので、傘など持っていたらそれを使って障害物がないか足元に注意しながら歩くことなど、どう命を守る動きをするかというレクチャーは大変勉強になりました。校舎の上の方まで浸水している景色は今でも印象に残っています。事前の水害対策や水害への防災意識の向上に役立つので、今後もARを活用した防災体験の機会が増えるといいと思いました。



広報担当：翁 真由美

二世、三世に渡る人、明日引越してくる人も  
住民みんなで作る南大谷・玉川学園のまちづくり・・・

このまちは、人が宝です

皆さん、ご存知でしたか？ ～Dサミット・竹灯りに込めた思い～  
2021年12月9日～10日 玉川学園コミュニティセンターで竹灯りが灯りました。

### <竹灯りのディスプレイをしました>

「～認知症とともに生きるまちづくりのはじめ方～全国xまちだDサミット2021」に先駆け、玉川学園コミュニティセンターでは「竹灯り」が展示され、12/11（土）当日はライブビューイング会場となりました。この竹灯りは、サロンひまわりに通う認知症の人たちが、子どもたちに残す里山作りで整備している竹林から切り出された竹で制作したものです。認知症であっても、どのような状態、状況であってもできることがある！その象徴となりました。Dサミットでは、キーワードとなる「水平な関係性」について、登壇者の方は「困っていることがあれば、やってあげる（代行）ではなく、一緒に手伝うからやりましょう。」という双方向の関係性を求められていました。また、認知症になっても昨日の自分と今日の自分は変わっていないのに、認知症と診断されると周りが変わってしまう、周りが優しくなんでもやってくれて、却って行動が制限されてしまう、何も分からない前提で「子ども扱いしないで欲しい」という発信もありました。周りが「認知症」にとらわれ、人を見ずに認知症を見てしまう傾向があるのではないかと、という意見もありました。そんな中でも、趣味や楽しいことを共有しあえる仲間、居場所、人と人との繋がりに励まされるといった声もありました。まとめでは、「偏見は避けられないが行動は変えられる」という言葉が印象的でした。「どんな地域だったらこれからも生活していきたいか？」今後の大事なテーマを引き続き地域の方々と一緒に考えていきたいです。サロンひまわりをはじめ、町田市高齢者福祉課、玉川学園町内会・自治会連合会、玉川学園地区まちづくりの会、玉川学園コミュニティセンターの方々の全面協力を得て、「竹灯り」を実現できたこと、心より感謝申し上げます。

町田市町田第3高齢者支援センター



玉川学園地区まちづくりの会 清瀬さん監修。竹も凸凹、パネルもあえてランダムに個性を強調するディスプレイになりました！認知症のDだけでなく、ダイバーシティ（多様性）のDもこの空間に表現されています！



狭いスペースでジェスチャーを頼りにパネルの向きを右や左に微調整して貼っています。

<お問い合わせ先>

玉川学園・南大谷地区協議会事務局

(玉川学園コミュニティセンター駅前連絡所内) TEL 042-732-9372

代表：服部知行 hym-kaede@jcom.home.ne.jp 事務局長：篠原佑 shinotasuku@yahoo.co.jp

玉川学園・南大谷地区協議会ホームページ <https://tgmotikukyougikai.blogspot.jp>

広報担当：翁真由美 tgmotikukyougikai@gmail.com

※竹灯りは貸し出ししています。

お問合せ先：HATARAKU認知症ネットワーク

電話：042-732-3451

メール：dfmachida@gmail.com

貸し出し：1セット10本、2泊3日3,000円

(専用電球10本付きですと5000円になります。

詳細はお問合せください。)

